

浸水深マップ 山田ヶ谷池(14,700m³)

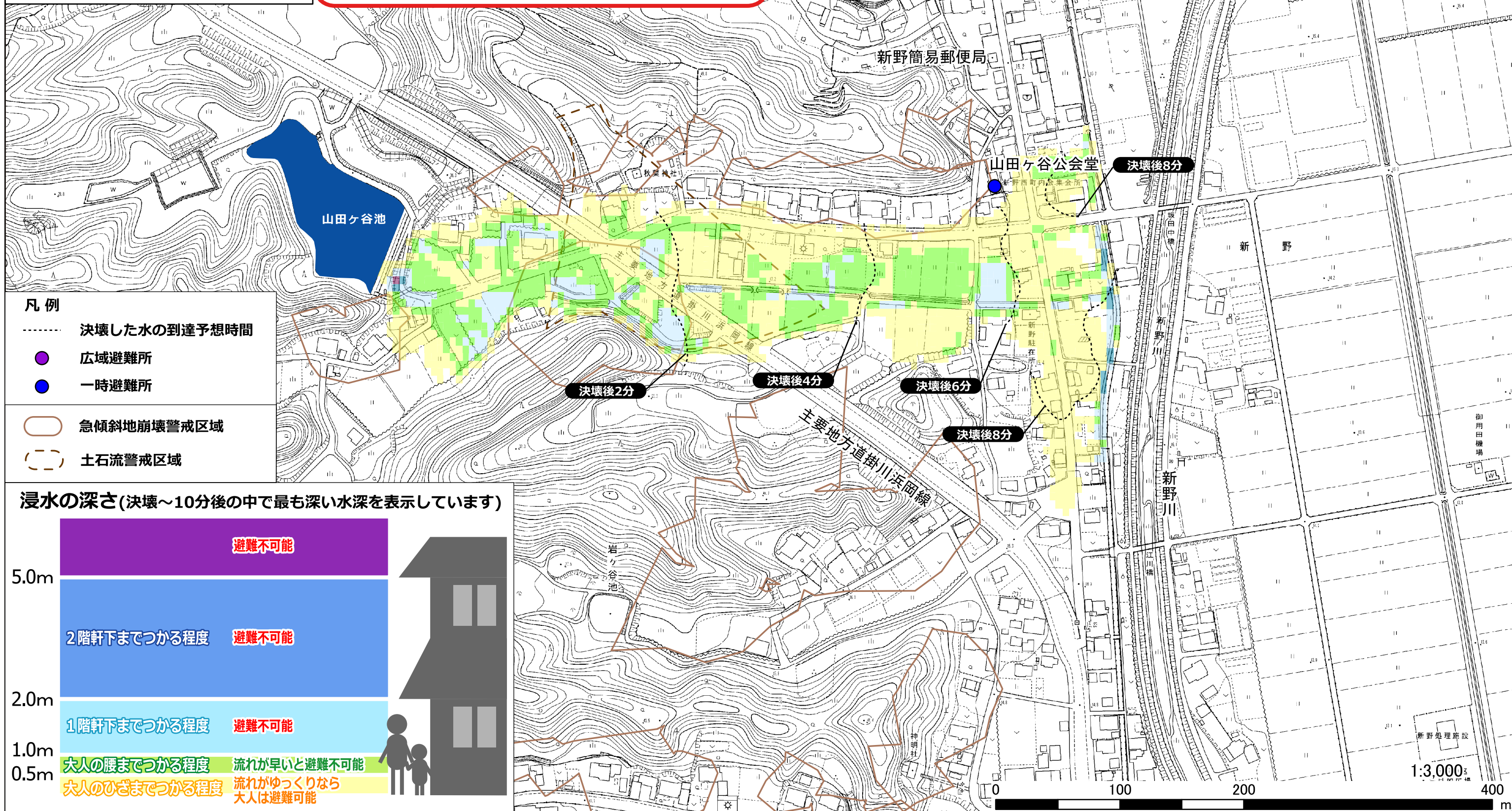
平成31年2月作成

このマップは、山田ヶ谷池が決壊した場合に、どのような被害となるかを知るために、全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定し、10分後の浸水範囲を表示しています。災害の状況によっては、表示されている範囲以外においても、被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

豪雨、地震によるため池の決壊が想定されるとき

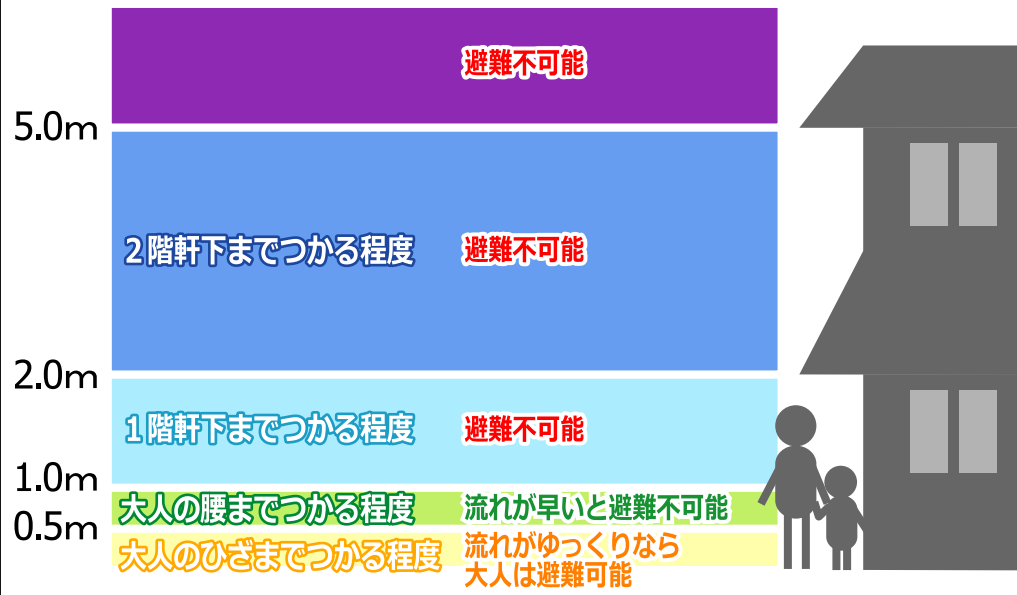
- 屋外にいたら** → マップの浸水範囲外に避難しましょう。
- 室内にいたら** → 自宅にとどまりましょう。(むやみな移動はかえって危険です。)
- 避難場所へは** → 自宅が壊れるなど、避難場所に移動しなければならない場合は、**周囲の状況を確認しながら避難しましょう。**(豪雨発生時は、河川の水位、音にも注意しましょう)

※災害発生後すぐ決壊するとは限らないので、安全が確認されるまでは十分注意しましょう。



- 凡例**
- 決壊した水の到達予想時間
 - 広域避難所
 - 一時避難所
 - 急傾斜地崩壊警戒区域
 - 土石流警戒区域

浸水の深さ(決壊~10分後の中で最も深い水深を表示しています)



1:3,000
0 100 200 400 m

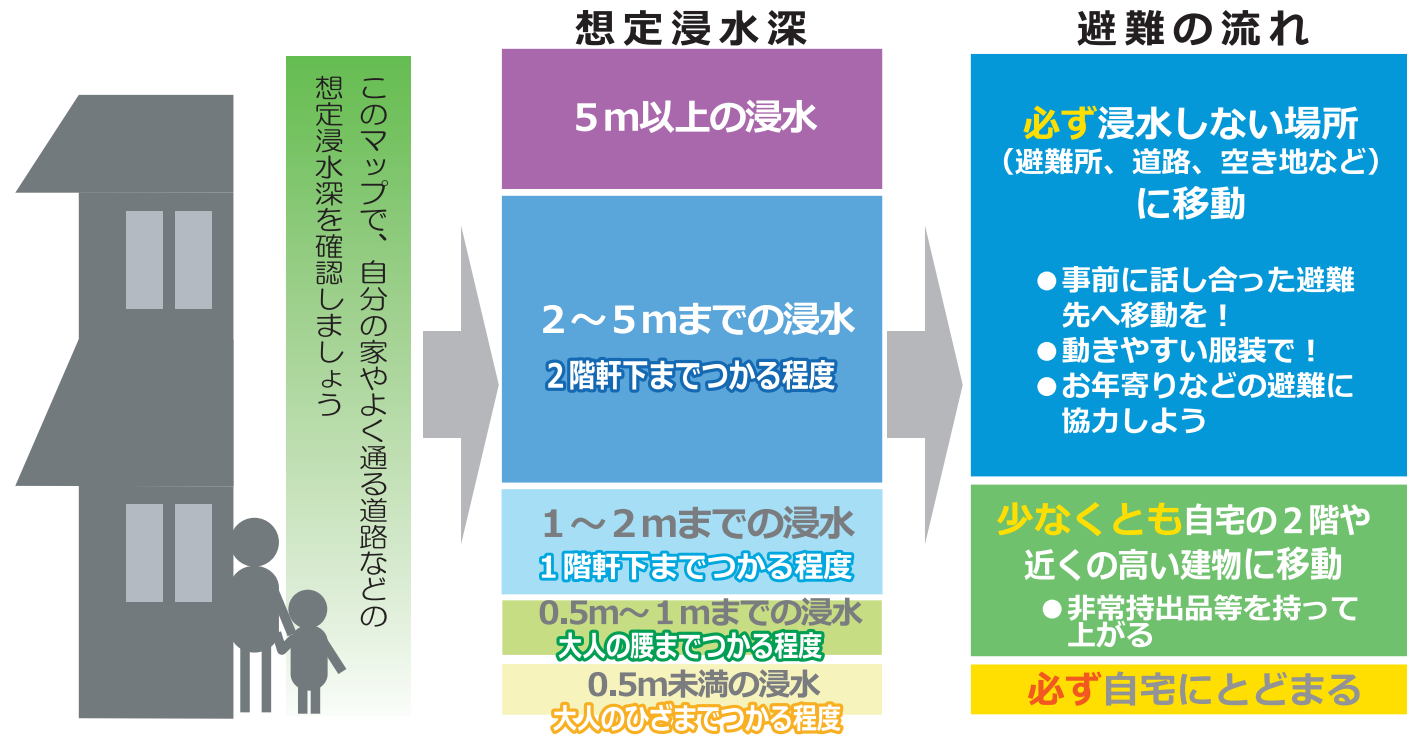
豪雨、地震によるため池の決壊が想定されるとき

- 屋外にいたら → マップの浸水範囲外に避難しましょう。
- 室内にいたら → 自宅にとどまりましょう。(むやみな移動はかえって危険です。)
- 避難場所へは → 自宅が壊れるなど、避難場所へ移動しなければならない場合は、周囲の状況を確認しながら避難しましょう。(豪雨発生時は、河川の水位、音にも注意しましょう)

※災害発生後すぐ決壊するとは限らないので、安全が確認されるまでは十分注意しましょう。

基本的な考え方

避難のために外出する方が、むしろ危険になっている場合もあります。市から発令される避難情報に注意して、避難所へ避難するか、屋内の比較的安全な場所(2階等)にとどまるなど、命を守るための判断・行動をとってください。



御前崎市ため池ハザードマップ

山田ヶ谷池 YAMADAGAYAIKE

ため池ハザードマップとは

一定の条件を想定して、ため池が決壊した場合の被害を予測し、被害範囲を地図に示したものです。

全国のため池の多くは老朽化が進み、近年、局地的な大雨や大規模な地震などによる被害が各地で発生しています。また、過疎化や高齢化が進み、ため池の適切な管理や、緊急時の情報伝達が的確に行われない懸念が生じています。

ため池が決壊する恐れのある場合、または決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するための参考資料として、「ため池ハザードマップ」を作成する必要があります。

ハザードマップを作成すると・・・

日頃の防災意識を高めることができます

あらかじめ避難先を家族と話し合い、ため池決壊が起こりうることを、頭の隅においておくことで、被害を防ぐことができます。

地域が抱える危険を、みんなで考えることができます

地域の防災対策の基礎資料となります。また、となり近所で助け合うことができます。

災害が起きたときに、すばやく的確な避難ができます

単に早く避難すればよいとは限りません。状況によって、避難しないほうがよい場合もあります。

避難情報の種類と取るべき行動

避難情報には、緊急度に応じて3つの種類があります。どのような違いがあるか確認しておきましょう。

避難準備・高齢者等避難開始

- ① 人的被害の発生する危険性が高まった状況です。
- ② 避難するのに時間がかかる高齢者などの要配慮者やその支援者は避難を始めます。
- ③ 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常時品の用意など避難の準備を始めます。

避難勧告

- ① 人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況です。
- ② 各人は速やかにあらかじめ決めておいた避難行動をとります。

避難指示

- ① 人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況です。
- ② 避難中の人は直ちに避難を完了してください。
- ③ まだ避難していない人は直ちに避難します。すでに避難することが危険な場合は、近隣の安全な建物や屋内のより安全な場所へ移動します。

避難情報に注意しましょう

避難情報は、さまざまな経路で住民のみなさんに伝えられます。複数の情報源から正しい情報を得るようにしましょう。

